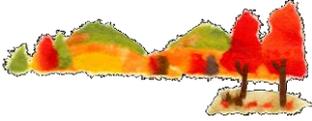


11月は、学校開放月間



校長 府中 恵理

和歌山県では、毎年、11月を学校開放月間としています。学校での子供たちの学習や生活の様子を保護者や地域の方々にご覧いただき、学校への理解を深めていただくとともに、地域ぐるみで子供を育てる機運を高めたいと考えています。

ぜひ、この機会に子供たちの様子をみていただくとともに、ご意見を賜り一層の支援をよろしくお願ひ申し上げます。始業は8時15分で、8時20分から読書タイム・朝の会を経て、1限の授業に入っていきます。15時20分に6限の授業が終了し、帰りの会をして、下校となっています。なお、水曜日は、基本的に午前中の開放とさせていただきます。

校時の詳細をお知りになりたい方は、学校までお問い合わせください。

11月1日(水)は創立記念日(96周年)

大正時代当時、海草郡湊村東部尋常小学校に属する一部が和歌山市に合併編入し、大正10年11月1日を以て創立され、砂山小学校と名称を付されました。

8日(水)の「ありがとう集会」で

学校の行き帰りや放課後には、いつも子供たちを見守ってくれる地域の方々がたくさんいてくださるおかげで、毎日、子供も保護者も安心です。

学校では、今年も全校児童で、地域の方々に直接、お礼の気持ちをお伝えする機会をもちます。

いつもありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いします。

21日(火)は、人権参観です！！

全学年が人権について考える授業を参観していただきます。

子供たちの授業をしっかりと参観していただき、その授業を受けて、ぜひ、お家でも家族でお話をする機会をとってください。

朝、起きた時には、「おはよう」、子供を送り出すときには、「行ってらっしゃい」、寝る前には、「おやすみなさい」は当たり前ですが、大人の毎日の忙しさから、私たち大人は、どこかで、そうした当たり前の声かけや、小さなことでも褒めたり、おだてたりすることを忘れてしまっていないでしょうか。

和歌山市5部PTA人権研修会で

11月11日から12月10日は、人権を考える強調月間とされています。

一人の人として、そして親として、人権について考える研修会が、去る10月28日(土)中央コミュニティーセンターで開催されました。

「親子関係の不思議 - 甘えと攻撃性、そして命の尊さ - 」と題され、本田 昌子 先生のご講演を拝聴しました。

私も保護者の方々と一緒に参加させていただきましたが、より大切に子供たちを育てていくための、たくさんのヒントを得る学びとなりましたので、少しご紹介します。

家庭環境が心の安定に与える影響について皆さんと考えました。

子どもにとっての居場所

物理的に子どもがその場所にいるという「居場所」と、子どもが心を落ち着かせることができる・安心できる「居場所」が考えられ、近年、様々な要因により家庭に子どもの「居場所」がない場合も多くなっている現状です。

そのような中で、子どもたちは心が不安定になりやすい、人との関わりが円滑にいかない、自信がもてない、ストレスを抱えやすいなど負の状況が生じやすくなります。母親という役割を果たしながらも、仕事や女性としての価値観を優先してしまい、子どもが寂しい思いをしていたり、親が子どもに過度の期待をかけてしまったりすることで、子どもが悩み、ストレスになっていることもあります。

家庭環境は、社会の変化、家族構成の変化、経済的状況、仕事の負担度、病気、介護等、その時々で変化しますが、どのような時にでも、家庭が子どもの「居場所」となるよう、子どもにとって、自分のことを受け入れ、いつも温かく見守ってくれる人がいることが必要不可欠だと言われます。

子どもは感受性がとても強いです。「ねえ、ねえ、お母さん・・・」に対して、「ちょっと待って、後にして」などという毎日になっていませんか。親は、聞き上手になって相手(子ども)を認めること、「さっさとしなさい、ダメダメ」などではなく、やり切らせることや少しの失敗はOK、子どもに決定権を持たせること、「おまえ」「何やってるの」ではなく、正しい言葉づかいで、なぜダメなのかを正しく伝えることを今一度、見直してみませんか。